



学会・シンポジウム情報



1997年7月21-25日: 10th International Congress of Protozoology (ICOP-10)

University of Sydney, Australia. Professor D.J. Patterson, School of Biological Sciences, Zoology A08, University of Sydney, Sydney, NSW 2006, Australia. Tel:(61) 2 351 2438, Fax:(61) 2 351 4119, e-mail: paddy@extro.ucc.su.oz.au

1997年8月10-16日: 第6回国際藻類学会議 6th International Phycological Congress Leiden, The Netherlands (43巻1号)

1997年9月22-29日: International Marine Biotechnology Conference, Sorrento, Paestum, Capo Rizzuto, Otranto, Pugnochiuso - Italy.

Topics: 1. Marine Organisms as Biological Models in Marine Biotechnology, 2. Natural and Cultural Marine Resources in Marine Biotechnology, 3. Marine Biotechnologic Interactions, 4. Social-Economic and Regulatory Aspects of Marine Biotechnology. 連絡先: IMBC '97, Attn. Ms. Dpmatella Capone, Stazione Zoologica 'Anton Dohrn', Villa Comunale I-80121 Naples, Italy, Tel. +39 -(0)81-5833215, Fax. +39 -(0)81-7641355, e-mail: imbc@alpha.szn.it

1997年10月29日-30日: 第1回海洋深層水利用研究会全国集会 ボルファートとやま, 連絡先: 〒936 富山県滑川市高塚364 富山県水産試験場 藤田大介, Tel: 0764-75-0036, Fax:0764-75-8116, e-mail: d-fujita@nsknet.or.jp

1997年11月8日: 藻類談話会(神戸大) (詳しくは次ページの案内をご覧ください。)

1998年3月26日-27日: 日本藻類学会第22回大会(下田) (詳しくは本号の案内をご覧ください。)

1998年4月12日-17日: 第16回国際海藻会議 The 16th International Seaweed Symposium, Cebu City, Philippines. Full paper and poster presentations are invited on all aspects of seaweed research and utilization, including, but not limited to: applications, molecular biology, chemical ecology, community ecology, taxonomy, chemistry, physiology, resource management, biogeography, pollution, diseases, microalgae, aquaculture. Those wishing to organize special sessions or topics, please contact immediately the organizers. 連絡先: Dr. Gavino Trono, Jr., Marine Science Institute, University of the Philippines, 1101 Diliman, Q.C., Philippines. Fax. (+63-2) 921-5967; 922-3958 e-mail:

trono@msi.upd.edu.ph

1998年5月10日-30日: 第7回植物プランクトンコース Seventh Advanced Phytoplankton Course, Taxonomy and Systematics. (詳しくは次ページの案内をご覧ください。)

1999年9月20日-26日: 第2回ヨーロッパ藻学会議 The Second European Phycological Congress (EPC 2), Montecatini Terme (Italy). 連絡先: Prof. Francesco Cinelli Dipartimento di Scienze dell'Uomo e dell'Ambiente - Università di Pisa Via A. Volta, 6; I-56126 Pisa, Italy Tel: + 39 50 23054; Fax: + 39 50 49694, e-mail: cinelli@discat.unipi.it (The first circular will be mailed in May 1998.)

1999年9月26日-10月1日: 第8回国際応用藻学会議 8th International Conference on Applied Algology (8th ICAA), Montecatini Terme (Italy), 連絡先: Prof. Mario Tredici, Dipartimento di Scienze e Tecnologie Alimentari e Microbiologiche - Università di Firenze P.le delle Cascine, 27; I-50144 Firenze, Italy Tel: + 39 55 3288306; Fax: + 39 55 330431; e-mail: tredici@csma.fi.cnr.it

1999年8月1日-7日: 第16回国際植物会議 XVI International Botanical Congress (St. Louis, U.S.A.), 連絡先: Secretary General, XVI IBC, c/o Missouri Botanical Garden, P.O. Box 299, St. Louis, Missouri 63166-0299, USA FAX: (01) 314-577-9589 or e-mail: ibc16@mobot.org. You may also consult the Web site for more detailed information and to register. The address is: <http://www.ibc99.org>

Seventh Advanced Phytoplankton Course Taxonomy and Systematics

上記のコースがイタリア、ナポリ郊外の Vico Equense で 1998 年 5 月 10-30 日に開かれます。珪藻、渦鞭毛藻、円石藻およびその他の鞭毛藻など海洋植物プランクトンを、光学顕微鏡によって同定する訓練が主題です。特に有害なブルームを形成する種に重点が置かれます。定員は 20 名で、修士・博士取得者あるいは相当の経験を有するものが対象になります。参加費用・応募方法・応募用紙は以下の WWW アドレスにあります。応募の締め切りは 1997 年 10 月 15 日、採否は同 12 月 15 日までに決まります。問い合わせは下の Marino 博士か古谷 研 (furuya@fs.a.u-tokyo.ac.jp, 03-3812-2111 内線 5293) まで。

<http://www.szn.it/~phyto98/phytocourse.html>

Dr. Donato Marino, Marine Botany Laboratory, Stazione Zoologica 'A. Dorn', Villa Comunale 80121, Naples, Italy
e-mail: phyto98@alpha.szn.it

1997 年度藻類談話会のお知らせ

藻類談話会は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。今年度は以下の通り講演会を企画しています。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：1997 年 11 月 8 日（土）13:00 - 16:30

場所：神戸大学 瀧川記念学術交流会館（神戸市灘区六甲台町 1-1）

講演予定

楠見武徳（徳島大・薬）：大型藻類の生理を司る化学物質

大濱 武（生命誌研究館）：藻類のミトコンドリア遺伝暗号変異から見た系統関係

幡野恭子（京大・総合人間）：アミミドロ遊走子の網状群体形成

中原紘之（京大・農）・川井浩史（神戸大・内海域）：ナホトカ号重油流出事故による海藻類への影響、その後

参加費：500 円（通信費など）

談話会終了後、同会館の食堂ホールで懇親会が予定されています。談話会および懇親会の参加希望者は下記の宛先までご連絡願います（当日参加も可）。申し込みされた方には後日、詳細についてお知らせいたします。

参加申し込み・問い合わせ先

〒606-01 京都市左京区吉田二本松町

京都大学総合人間学部自然環境学科

幡野 恭子

TEL : 075-753-6854 FAX : 075-753-6864

e-mail : hatano@gaia.h.kyoto-u.ac.jp

多核細胞研究会（仮称）設立のご案内

新しい研究会を発足します。会員を募ります。

1 枚の閉じた膜系によって外界と区切られた微小な空間内に、生命活動に必要な装置がそろい、1 個の核によってエネルギー代謝から増殖にいたるすべての機能が時間的・空間的に見事に制御されているという意味で、細胞は生命活動の最小単位といえましょう。

でも、私たちの周りのすべての生物の中で、まったく同じ仕組が働いているのでしょうか。私たちは、1 つの細胞の中に多くの核を含む多核細胞が生物の系統のあちこちに存在することを知っています。藻類や菌類では多核体 (coenocyte) とよばれ、有性生殖時などを除いて、生活環のほとんどすべてを多核体で過ごすものが少なくありません。生活環の限られた時期やあ

る器官だけが多核細胞というものもあります。また、シャジクモ (*Chara*) 節間細胞のように、amitotic な核分裂がみられるものもありますが、共通することは、核が分裂するとき細胞の分裂を伴わないことです。それらの多くはいわゆる巨大細胞を形作っているのです。大きくて扱いやすいため、細胞生理学で格好のモデル細胞として使われてきました。

しかし、これまで、どうして多核の状態が維持されるのか、それらは細胞質分裂に関する遺伝子を失っているのだろうか、といった疑問が問われたことはありませんでした。多核細胞の起源は一つでなく、多源的に進化してきたのだろうか？多核であることと巨大であることに、どのような因果関係と、生態的有利性があったのだろうか？核間距離、分裂時期はどのように制御されているのだろうか。核分裂の他の部位への波及はあるのか？あたかも並列制御コンピューターのように、細胞機能を多くの核が分担して行っているのだろうか？置かれた部位に依存した核の機能分化はあるのか？形の変化が、次の遺伝子発現にフィードバックすることはないのか？などといった疑問が沸々と湧いてきます。

こうした疑問に答える術を私たちはまだもっていませんが、最近、藻類多核細胞を扱っているいくつかのグループで、多核細胞体制そのものを研究対象としようという機運が生まれてきました。蛍光顕微鏡を使って細胞骨格や核の動態を観察することから、いくつかの注目すべき成果が生まれています。紅藻カザシグサ (*Griffithsia*) の多核細胞の分裂時に見られるアクチンリングはまるで分裂途中の動物細胞を見るようです。緑藻モツレグサ (*Acrosiphonia*) では、核が将来の分裂面に輪状に集り、同調的に分裂しますが、個々の核の分裂面は細胞の分裂面とは一致していません。真性粘菌 *Physarum* の変形体が、光によって一定量の核を含む小片に仕切られるという不思議な現象も見つかってきました。黄色植物フシナシミドロ (*Vaucheria*) の一部を青色光で照らすと、照射域に葉緑体が集合し、やがて、照射域の中央から枝が発生しますが、枝の誘導には、葉緑体を含む原形質の照射域への集合と、そこでの細胞壁溶解酵素などの新たな合成が必須のようです。

分子生物学でモデル生物として使われている酵母や *Arabidopsis* で見つかった現象や仕組みが、他の生物で常に共通である保証はありません。多核細胞の存在理由は単細胞や多細胞生物の研究からは解けません、逆

に、多核細胞の研究の中から細胞性生物でこれまで見過ごされてきた重要な発見がもたらされる可能性はおおいにあります。

そこで、提案します。今こそ、藻類多核細胞、真性粘菌、卵菌類などの多核細胞研究者が中心となって研究会という場を作り、さまざまな視点から議論して、互いの持てる技術、装置、頭を結集して、新しい研究を創っていかうではありませんか。

もちろん、単細胞や多細胞生物を扱っている方でも、この趣旨に賛同される方ならどなたでも参加できます。普通の細胞を扱っていても、見方を変えることにより、新しい地平が見えてきましょう。私たちは、あるいは細胞生態学という新しい研究分野の誕生に立ち会っているのかもしれない。

最低10年間活発に研究できる若手の結集をとくに期待します。始めは、手弁当で活動を開始し、軌道に乗れば、基盤研究や重点研究を申請し、シンポジウムなどを企画したいと思います。また、電子メールやインターネットを通じて、国際的な交流活動も考えましょう。この研究会の運営はdemocratic anarchyを基本とします。会員は平等で、どこにも特権は存在しません。入会希望、ご意見、ご提案等は下記にご連絡下さい。会の名称や性格付けなど、詳しいことはまだ決定していません。東邦大学での植物学会会場で、9月18日(木)に、「藻類を材料とする研究者の集い」と合同の関連集会をもちます。これをこの研究会の最初の集会とします。詳しくは今後の生物科学ニュースの記事をご覧ください。

片岡 博尚 (Kataoka, Hironao)

東北大学遺伝生態研究センター 980 仙台市青葉区片平 2-1-1

電話 022-217-5710; Fax 022-263-9845;

e-mail: kataoka@ige.tohoku.ac.jp

あるいは、

本村 泰三 (Motomura, Taizo)

北海道大学理学部付属海藻研究施設 051 北海道室蘭市母恋南町 1-13

電話 0143-22-2846; Fax 0143-22-4135;

e-mail: motomura@s3.hines.hokudai.ac.jp

(片岡博尚 東北大学遺伝生態研究センター)